



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2017-2018年度 国際ロータリーのテーマ

2018年

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

R.I 会長 イアン H. S. ライズリー



ロータリー:
変化をもたらす

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。
パストガバナー 前原 勝 樹

会長 前原 勝 幹事 園田 誠

クラブ会報・情報委員会

平岩千鶴子・木村洋一・山崎一順・牛腸章

7月2日号

第3073回例会
(6月11日(月)第2例会)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 来訪者紹介
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 委員会報告

7. 卓 話
「桐生の心意気とえびす講」
岡部 信一郎君
8. 点 鐘

ようこそビジター

〈米山奨学生〉 孫 逸菲 さん
〈青少年交換学生〉 Evann 君

〈ホストファミリー〉 柴崎 亜由美 様

平成 30 年度教科書供給功労者表彰受賞祝

竹内 靖博君



会長の時間

《報 告》

- ・6/4 例会終了後、定例理事会
新会員オリエンテーション
- ・6/5 次年度合同家庭集会
- ・6/7 家族会役員会
- ・6/8 次年度青少年奉仕委員会
- ・6/10 2018-2019 年度青少年交換委員会
桑原君出席

米山奨学生 奨学金授与

孫 逸菲さん



《予 定》

- ・6/12 桐生 5RC 会長幹事会
- ・6/16 ガバナー諮問委員会・現新地区役員合同会議
疋田 PG・森国際奉仕委員長 出席
- ・6/17 青少年交換長期受入学生歓送会
大友副会長、桑原カサセ、
飯塚国際奉仕委員長 出席
- ・6/18 未来企画委員会家庭集会
最終例会

青少年交換学生 お小遣授与

Evan 君



幹事報告

- ・歌津地区復興支援の会より「一燈」が届いております。
- ・館林 RC より創立 60 周年記念誌が届いております。
- ・桐生南、桐生西、桐生赤城の各 RC より週報到着。
- ・次週 18 日(月)は、最終例会です。点鐘午後 6 時 30 分、美喜仁本店となりますので、お間違えのないようお気を付けてください。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成 30 年 6 月 11 日)

総員 66 名:出席 28 名

平成 30 年 5 月 28 日例会修正出席率:72.13%

😊 ニコニコボックス

岡部信一郎君…卓話をさせていただきます／園田誠君…岡部プログラム委員長1年間ありがとうございました／竹内靖博君…このたび仕事の関係で大臣表彰を受けました。職業奉仕の結果かと思えます。色々ありがとうございました。今後ともよろしく願い致します／水越稔幸君…前原会長、大友副会長、園田幹事1年間お疲れ様でした。

卓話



「桐生の心意気とえびす講」

岡部 信一郎君

今日は、ビーイング前社長の高木信一さんを予定していましたが、事情で都合が悪くなり、ピンチヒッターで私がお話しします。

ビーイングは長戸大幸、織田 哲郎さん等が中心となり1978年に設立した会社で、この二人はやがて「踊るポンポコリン」を作ることになります。三原順子、BOOWY、TUBE、B'z、ZARD、大黒摩季、DEEN、倉木麻衣等を世にも出し、高木さんは、私の学生時代伊勢丹デパートの販売促進部と一緒にバイトした仲間で、BBクイーンズ、ビーズ 大黒摩季 倉木麻衣に係わり、歌謡曲→j-POPと言う流れを作り、業界では有名な方ですので、残念ですが機会があれば…ということでご容赦ください。

さて、笑う門には福来たる、福の神というと 出雲大社の大黒様、西宮神社のえびす様が有名です。古来インド～中国から伝わった7福神信仰が広まり、その中に、日本の福の神えびす様を繰り入れました。えびす様は海上守護神でしたが、室町時代に経済が発展し産業の分業化、商業が盛んになり、市が盛んに立つようになり、生活が豊かになると 福神信仰が盛んになって来ました。桐生西宮神社の本社、兵庫の西宮神社ですが、西宮の傀儡師(人形遣い)が、全国を回りえびす様信仰を全国に広めていきました。これと浄瑠璃と三味線が結びついていたのが、文楽といわれています。

えびす宮総本社の西宮神社は、お正月の関西の一大イベント、開門神事、一番福で有名ですが、桐生との共通点は徳川家です。記録によると、將軍家に拝謁出来たのは、

獨禮座 第一 伊勢内外宮祠官、第二 山崎神主、次 西宮神主、次 鹿嶋神主、次 武州府中六所神主、次 尾張熱田神主とあります。しかも、西宮神社の社殿造営には徳川家の強い後押しがあり、4大將軍徳川家綱公時、皆さんがえびす講の時にお受けする御神影

札(お姿)の頒布は、全国唯一西宮神社のお札が認められました。その後、桐生の先人がえびす様を勧請するときにこだわったのが、この係わりにこだわったものと思っています。

小島春比古さん、皆さん知っていますか…、本当は知らない人は、桐生人もぐりといってもいいくらいなんですよ。

さて、小島春比古さん、美和神社の歴代宮司のお一人であり、桐生町第3第町長、初代荒土小学校校長をつとめました。天満宮の紗綾市に博学の町長がしたためた見事な詞書があります。

日清戦争が終結し、桐生町からも 81 人が無事凱旋、ただちに凱旋記念碑を建立して榮譽を讃えることとなり、建設候補地は、天満宮境内と美和神社境内の二論がありました。美和神社周辺の環境を整備し、一大公園への悲願達成のため、境内に接した自宅と、所有する家作(貸家)を取り壊し、敷地を更地化したうえで、桐生町に無償で寄付しました。彼の熱意と行動力は、多くの人たちに感動を与えて賛意が得られました。一大公園化への百年の計は、明治 28 年(1895)5 月、時の桐生町長であった小島春比古が、個人として、将来を見扱えた大英断による、献身的な社会奉仕が桐生が岡公園の起源で、今では、桐生市の自慢の施設の一つです。まさにここをまちづくりの核として捉えた戦略です。

もう一つは、群馬大学理工学部です。当時、実業教育機関設立の運動が起こり、体系的に学ぶ技術教育こそ桐生の産業上必要不可欠と決断し、有志と連携しながら奔走しました。日本有数の機業地に躍進し、近代化の一翼を担う桐生町の熱意は、時の県議会もその必要を認めることとなり、県費補助を得て、町立桐生織物学校が明治 29 年 4 月 1 日、開校しました。

この街のビジョンを持った時のリーダー、小島春比古さんの先見性と熱き思いが、桐生市のその後の繁栄を作ったと言えるでしょう。

そして、美和神社ですが、10世紀に延喜式内社・上野十二社の一社で、それ以前の延暦 15 年(796)8 月 16 日、宮社に列せられています。関東では最も早く、広沢の賀茂神社もそうです。3つの内、二社が今の桐生市にあります。この存在が、徳川家康公等、多くの武将が桐生の地に参り、その後の桐生の発展のきっかけを作ったのではと考えます。

えびす講です。

桐生西宮神社は、本町 3 丁目で大火があり、災い転じて福となるという意気込みで、総本社より勧請をし、第一回のえびす講、秋季大祭を催行したのが、明治34年のことです。

えびす信仰は桐生の町では、江戸時代から、商家を中心に盛んであり、えびす様を誘致するなら、本物のえびす様、すなわちえびす宮総本社西宮神社から勧請しようということになりました。

当時の町衆は、自ら資金を調達し、本物であること、桐生と縁の深い徳川家とこれまた縁の神社、今で言う「まちづくりの核」として、ふさわしい本物のえびす様を格式の高い美和神社の境内に、えびす様をお祀りすることになりました。これが関東一社の由縁でもあります。

桐生のえびす講は、第一回から多くの人出がありまし

た、この機運を盛りあげようと、機屋をはじめとする産業界は、行政、一般の市民も惜しみなく協力をして盛りあげました。

昨年、祈念碑を読み解くと、この時の時代背景は、明治29年の国内の織物関係輸出額の版分は「桐生織物」といわれ、正に織物関係の産業戦略は輸出振興、そのシンボルとしてえびす様をお呼びすると言うことが明記されていました。100回目のえびす講の時の「大のぼり」、いろいろありましたが、桐生織物協同組合にこだわってお願いしたのも、ここに由縁します。

本物のえびす講を催行し、人の流れを作り、産業を活性化する、その後の桐生織物の発展を見れば結果が出ていますが、このインセンティブを作ったのは、小島春比古さんだったのではと私は推測します。

桐生のえびす講は本物のえびす講、つまり総本社西宮神社と同等の格式、先人の築いた誇りを維持することは最も大切ととらえて、本物のえびす様のご神徳を桐生に持ってくるのが私達のつとめと思っていますので、私も年に3回程度本社に行っています。全国のえびす宮神社のお祭り「諸国講社神楽祭」、全国に先駆けて御神影札を授与していただく「御神影頒布始祭」、このふたつの祭礼では、桐生西宮神社は重要なお役を担っています。



維持保全是大変です。えびす講もたくさんあります。この20年あたり、将来を見据え、街並みや設え等の改革を実行しなくてはいけないところは抑え、街並みの風景の写真をみてください。よく見ていただくと、最近では皆様に奉賛いただいたお印を掲示していますが、20年前は、街商、曆や神棚のお店がいっぱいでした。

その時の聞き取りで、将来の後継者不足を捉えた結果です。露店から、桐生の誇り、みなさんのえびす講として、ロータリーの皆様をはじめ企業や市民の皆さんの心意気のしるしを掲示しています。

神楽殿付近も、「えびす横町」として街商ゾーンを移動して、市内業者の出店に。神楽のみだった奉納行事も、福まき、からくり人形芝居、えびす太鼓を取り入れ、最近では「招福クジ」により地元商店との連携も今後も図っていきます。桐生の祭礼の殆どは、まち鷹の皆さんが支えていましたが、後継者も少ないことから、設営を時代背景にあった方法に大きく舵をきっていきます。

神社の修景の維持も大きな課題で、特に鎮守の森の維持管理、建物の修繕は、歴史がある分大変です。世話人の後継者も課題ですが、桐生RCの桑原志郎さん、北川貴彦さん、新井智二さんは、次に世代を担うべく活躍をしています。前原会長は、桐生西宮神社の宮司でもありますので、皆様のご協力をお願いしながら、桐生のえびす講を今後とも盛大に斎行していきたいと思っております。



本日のお食事

本日のお花



キッチンさわい

桐生ローターアクトクラブ最終例会
平成 30 年 6 月 26 日

